

愛知学院大学 第43回モーニング・セミナー

がんこな頭痛に注意

—頭痛を軽んじていませんか—

名古屋市立大学大学院医学研究科

神経内科 小鹿 幸生

2009.10.13

頭痛とは

: 頭部や顔面に自覚される深部痛
(頭蓋に感ずる疼痛性感覚)

B) 頭蓋内疼痛感受性組織 (Ray and Wolf)

- (1) 皮膚、皮下組織、筋、頭蓋外血管、頭蓋の骨膜
- (2) 目、鼻腔、副鼻腔の**軟部組織**
- (3) 頭蓋内の**静脈洞**(海綿静脈洞など)とその周囲組織
- (4) **頭蓋底の硬膜、硬膜やクモ膜の血管**
(特に**前、中大脳動脈**起始部や**内頸動脈**の頭蓋内部分)
- (5) **中硬膜動脈、浅側頭動脈、頭蓋内小血管壁**
- (6) 視神経、動眼神経、**三叉神経、舌咽神経・迷走神経、**
第1、2、3頸髄根神経

頭痛の分類と統計

機能的頭痛

<u>片頭痛</u>	36.0 (%)
<u>緊張型頭痛</u>	40.1
<u>群発頭痛</u>	5.3
その他（特発性穿刺様頭痛）	2.8

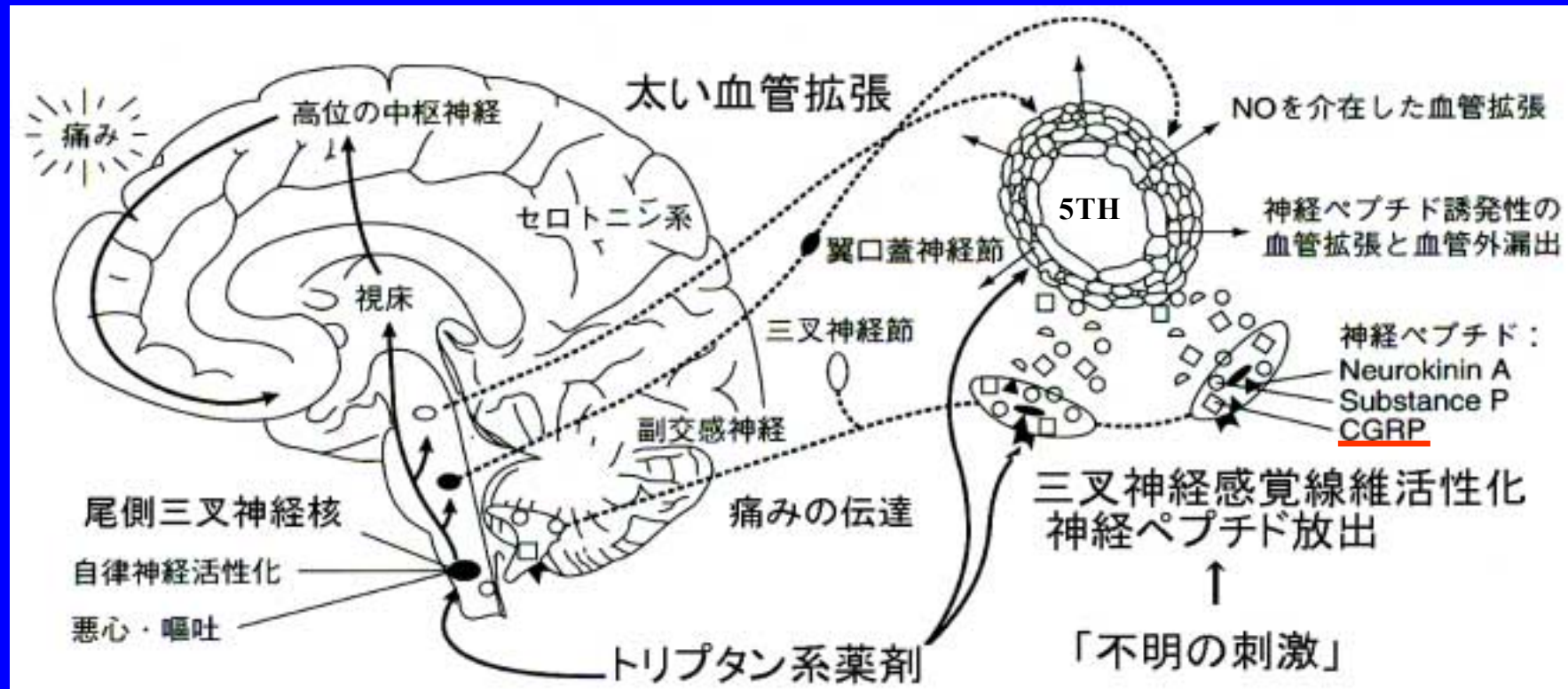
器質性頭痛

外傷後頭痛	0.6
<u>血管性疾患の頭痛</u>	1.5
頭蓋内疾患の頭痛	0.7
<u>薬物関連の頭痛</u>	2.1
非頭蓋性感染症の頭痛	0.7
代謝疾患の頭痛	0.04
頭部構造の異常による頭痛	1.9
<u>神経痛</u>	3.4
分類困難な頭痛	4.9

「1」片頭痛(頭痛の7%)

1) **亜型**: (1)前兆なし(80%) (2)前兆有り(18%) (3)脳底型

2) **発症機序仮説(三叉神経血管説)**:



ストレス等 → 血小板などからセロトニン放出 → 血管収縮 → セロトニン代謝・消失と虚血による細胞外 K^+ 上昇による硬膜などの三叉神経興奮による神経ペプチド放出 → 血管拡張 → 頭痛

3) 症状 (片頭痛の臨床的特徴):

素因	誘発因子	予兆(50%)	前兆(18%)	頭痛発作と 随伴症状	回復期
家族歴	ストレス	あくび	視野異常	拍動痛	消耗感
性差	光・騒音	情緒不安	感覚異常	悪心・嘔吐	利尿
女>男	ホルモン剤	空腹感	失語	光・音過敏	睡眠で
	月経	浮腫	片麻痺	体動による	寛解
	食物			増悪	
	アルコール、チーズ、 チョコレート、柑橘類				
			血管収縮期	血管拡張期	
			セロトニン: 血中↑	血中↓、尿中↑↑	

4) 治療:

A) 発作時: 鎮痛剤、非ステロイド性抗炎症剤、血管収縮剤

(エルゴタミン、スマトリプタン「中枢神経特異的セロトニン作動薬」)

B) 間欠期: 誘因の除去; Ca^{++} 拮抗剤、 β 遮断剤、抗てんかん剤、

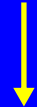
抗うつ剤(一定期間、頻回発作、誘因が不明、血管収縮剤が無効)

「2」 緊張型頭痛:頭痛全体の80-90%

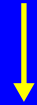
1) 亜型: (1) 反復発作性緊張型 (2) 慢性緊張型

2) 発症機序:

外的ストレス(姿勢異常、同一姿勢、口・顎関節異常、過労など)
性格・精神状態(うつ、不安神経症等)



項部、後頭部、側頭部の筋緊張、筋弛緩不全



- (1) 局所の血管圧迫による血流障害(乳酸、ピルビン酸などの代謝産物蓄積による疼痛と筋緊張亢進; 悪循環)
- (2) 上部頸筋の一部が付着する頸髄硬膜の牽引による牽引痛

注意:

緑内障、他の視力障害、副鼻腔炎などの疾患

「3」 群発頭痛: 頭痛全体の 0. 1%

1) 亜型: (1) 慢性型 (15%) (2) 反復発作性 (85%)

2) 発症機序:

- (1) 不明の機序 → 海綿静脈近傍の内頸動脈拡張 → 血管周囲の炎症と交感神経、副交感神経刺激 (翼口蓋神経節として涙腺、鼻粘膜、結膜に分布)、三叉神経刺激 → 頭痛、自律神経症状 (結膜充血、流涙、鼻閉、鼻汁、Horner徴候)
- (2) 視床下部 (視索上核) の周期性興奮?

3) 症状:

- (1) 眼窩、眼窩上部 and /or 側頭部の激烈な持続性頭痛
- (2) 顔面部の自律神経症状
結膜充血、流涙、鼻閉、鼻汁、Horner徴候、眼瞼浮腫
- (3) 発作は 1回/2日から 8回/日、15から180分持続
- (4) 夜間、疼痛発作で目覚める

機能的慢性頭痛の鑑別

	片頭痛	緊張型頭痛	群発頭痛
性別・ 発症年齢	女性に多い 10-20歳に多い	性別・年齢無関係	男性に多い 20-40代に多い
部位	片側性 前頭部に多い	両側性 後頭部、後頸部	片側性 眼窩部、前額部
性質	拍動性	頭重感、締め付け	えぐられるような 激痛
程度	中等度-高度	軽度-中等度	激痛
随伴症状	嘔気、嘔吐 光・音過敏	肩凝り、首の張り	流涙、結膜充血、 鼻閉、鼻汁
誘発因子	特定食物、過労、 寝不足、寝過ぎ、 人混み、月経など	ストレス 同一姿勢の維持	アルコール